

東京新報

妄言妄評

栗 生

▲朝鮮問題論 獨逸評論紙上に掲げられた朝鮮問題論は、獨逸人の朝鮮問題に対する見解を、獨逸人の立場から述べたものである。獨逸人は、朝鮮を獨逸の勢力範囲とする。獨逸人は、朝鮮を獨逸の勢力範囲とする。獨逸人は、朝鮮を獨逸の勢力範囲とする。

未利用法實施後の状況

中村嘉郎氏談

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。

▲未利用法實施後の状況 未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。未利用法實施後の状況は、大體如左の通りである。



精選薪炭
今川西商店
たきん卸小賣
荒田たきん工場

電話 二四八番
支店 電話 二六六番

▲無料紹介欄
破産者 年額三十圓餘額に至る者 氏名在社(四二)
破産者 年額三十圓餘額に至る者 氏名在社(四二)
破産者 年額三十圓餘額に至る者 氏名在社(四二)

▲松田藤太郎君
松田藤太郎君は、東京市豊島区に生れた。松田藤太郎君は、東京市豊島区に生れた。松田藤太郎君は、東京市豊島区に生れた。

允為里德商店

新進有志
の各夫人參拜したりと
今井忠雄

● 仁川擧界

益々激甚をます
巧妙なる運動界

其勢力鉅
組合有志
公民會

なる仁川市中も、撰挙運動者が右往左往行き交ふ有様何となく仕はしく見受けられぬ而して仁川市民の選挙運動は京城のその如くも有勢なり

▲實業

自勢力第

く傳へて三派に分れて正々堂々の陣を張り
鉾を決定せんとするにあら而して候補團体
は實に八九個團体形成し何か何やと混屯
とて竟成明にきし

寸分の抜りなく各自黨の振張に怠りなく活動しつゝある様貌猶といはんか巧妙といはんか、**商賈**の閑港地の居留民士に敏捷の程驚くの外に、**加來氏**の

午
 重さをなされ各自半固たる其底と有るに
 元老株
 仁川元老株として居留地に
 伊東派の
 基幹教

園 以て其十中八九は悉く營獲すべし
 十 頼原修一郎、加來榮太郎、奥田貞次郎、慶
 田利吉、田中佐七郎、稻田勝彦、桑野良太
 郎、力武平八、中津三十郎、
 一 四丁目目同
 一 項に付協
 一 黨則

加來派と奥田派
 太郎の根底を危む者なきにあらずと雖も氏は川第一の成功者といひ且つ人格高擧に
 世に偶々加來榮
 役員
 東京
 一演
 青年會

して、任川開闢以來議員の職にあり、毎議會毎
に桑野氏と相並び、誇々の議を樹て、も他議員
の意見を代表するものは常に氏に依てなさ
れ、つゝある程なり、而して其膝下に中津市十
人商業會
なり當日
は、

鍋

郎といふ老將あり沖津氏一腹水産組合司令すゐさんあつちり人ひとは参合さんごう官くわんとして加來投票かきとうの一命を下くだすは忽たちちに
て數百ひゃくの手下てうたは馳はせ集あつまり如何いかなる外敵がいとくも
局鐵道きよくてうだう管かん

愛一、身にして尊厳するを得んなり。若し夫の富り左の二田派に至りては更に一層の根柢を有し石油組合、醬油及米穀商賈は擧げて氏を投票すべし。又也の一役百留民も當に氏の聲望に望み、

ひ仁川の大立物として何人も許す所なるを
 以て何派たるを問はず悉く氏に投票するは
 疑なかるべし

●劇統整
 第十三師
 一供

既に豫定したるが如く昨今に至り漸く活動を開始し尤も人目に立たざる様特更に磨きを以て印刷物を配布しつゝある其の情勢は

は石黒行平、堀力太郎、青木一葉、篠木伊下附され、勢松、平山末吉、鈴木倭、板倉政治郎、美濃谷榮次郎、頼原修一郎、河合律三郎等も月迄に召入れ

●京橋

て黨派組織の當初より民役所改革を公言し居りたるものなり

●中立黨 ●中立黨の成立は、見ても、聞かなくても、
●鍋島 ●中將は、

●第士

入が前紙に於て豫言したるが如くなるが果
 して昨日に至り俄然其成立を發表されたり
 此團體は民役所現吏員の維持策として
 特許局

十二月

行せんとするものゝ如く一寸地主派と其宜
 爲め來るものゝ如く一寸地主派と其宜

-334-

城のある安宿。腰刀を其の當壁に懸け、爲すこともなく日を送り居りしが元々多くもあらぬ路金のシウ何時迄も續くべくあらざる宿料の扱ひは勿論賤しきにも窮するやうになりし故計は早くも爰に決心の隙を圖むと共に男の隨男妻無きに愛想をつかし或る時散々男の意氣地なきを惡口難言せし上其夜密かに宿をば抜け出て浦鹽さして出奔し十日餘りの後漸く同地に足を踏み入

なぞ厭味を並ぶる中文と標は此家を出立でた人も標が言葉といひ又た李召史にも未練残れば韓が李召史に向ひ何事をか云ふならん表よりソツと立開い始めたれば兩人は嫉妬の念に驅られ大に怒り引返すより早く韓鎮玉に拘ひ打つて掛りたる此状況を見たる李召史は大に驚き直ちに此旨後洞派出所に訴へ出たるにぞ同所よりは巡查出張三名の者共を引致し目下取調べ中也

原作「當世女」を据りたる
肥前中津八日御發行の貴社新聞
記事中暴族員と題せる事項は事實相違
廣有之候間御取消相成度此段及照會第一
十一年九月九日東京居留民協會編輯
常高等小學校長河合精一郎京城新聞社謹啓

北又は西の風颯々降
十月朔附近各地氣象概況
北又は西風吹く
部は晴天なりとも其他は曇天なり

天氣豫報(自十一月午後六時)

紙上を以て謹謝す

秋林松皆大
吉田永川村
富金達
太郎次郎
保廣太

京城革新同志會


 店服吳本
 季九二四

-336-